



写真・狂言『武悪』オクムラ写真館

特 春秋座—能と狂言

— 2P-5P

集 演劇作家・藤田貴大ワークショップ

— 8P

創立40周年ツアー第三弾

鼓童ワン・アース・ツアー 2021 ~童(わらべ)

— 9P

ホワイエ 松岡心平、下野竜也

— 6P-7P

彩吹真央&京フィル レインボーコンサート in 春秋座

スペシャルゲスト 佐藤隆紀 (LE VELVETS) — T・2P-T・5P

2021年12 ~ 2022年3月公演スケジュール — 10P-11P



写真：能『弱法師』前島吉裕

京都芸術大学舞台芸術研究センター主催

大学開学30周年・劇場開場20周年記念 渡邊守章追善公演

春秋座—能と狂言

2022年2月6日(日) 14:30

会場：春秋座

演目解説：天野文雄（舞台芸術研究センター所長）

演目：狂言『武悪』（野村万作、野村萬斎、他）、能『弱法師』（観世鏡之丞、他）、追悼トーク「渡邊守章先生と『春秋座—能と狂言』」大倉源次郎、亀井広忠、観世鏡之丞、野村萬斎（五十音順） 司会：天野文雄

●公演情報の詳細はスケジュール一覧（P.10）をご覧ください。

歌舞伎劇場の空間で能・狂言をお楽しみいただく春秋座恒例企画です。今回の能は、浄瑠璃や歌舞伎の『摂州合邦辻』や説教節『しんとく丸』などでも知られる『弱法師』を上演いたします。舞台は春のお彼岸の中日。大阪の四天王寺を舞台に物語が繰り広げられます。公演に先立ち当センター所長の天野文雄が四天王寺を訪れ、執事で勸学部長の南谷恵敬さんにお話を伺いました。また、今舞台は本公演の企画・監修を2009年度からつとめ、2021年4月に逝去された渡邊守章前所長の追悼公演として上演いたします。

『弱法師』の舞台となった四天王寺とは

—— 四天王寺は『弱法師』の中にも「仏法最初の」と出てくる通り、日本で一番古いお寺といわれていますね。

南谷 定説ではそうですね。『日本書紀』には推古天皇元（593）年に聖徳太子により建てられたと書いてあります。用明天皇2（587）年、崇仏派の蘇我氏と排仏派の物部氏の間で戦が起こり、蘇我氏側に付いた太子は自ら四天王像を彫り「戦に勝たせていただけたら四天王を祀るお寺を建立しましょう」と誓願を立てました。そして見事勝利し、建立したのが四天王寺です。



左・天野文雄、右・南谷恵敬さん

—— 『弱法師』の舞台は春のお彼岸の中日で、父である高安通俊が息子の弱法師（俊徳丸）に「日想観」を勧めますね。日想観は観世流ではジッソウカンと言い、ジッソウガンと言う流儀もありますが、これは、どういうものですか。

南谷 日想観というのは、心の中で夕陽が沈むところを想いなさいよということです（極楽浄土は陽が沈む西にあることから）。ですが、四天王寺の日想観は実際の夕陽を見て行うもので、弘法大師が始められたと伝えられています。



日想観する人々。石の鳥居の向こうに真っ赤な陽が沈む。
写真提供：四天王寺

平安時代に四天王寺で聖徳太子直筆とされる『四天王寺縁起』が発見されまして、そこには「当極楽土 東門中心」、つまり四天王寺は極楽浄土の東門だと書かれています。よく、これを読んだ方が四天王寺の西門は極楽浄土の東門だと勘違いされるのですが、そうではなく伽藍全体が極楽の東門に当たるということです。能の中でも弱法師が「ここが東の門」と言うと、高安が「何を言うのだ。ここは西の門ではないか」と答えるので、「愚かなことをおっしゃるものだ。ここが極楽の東門だ」と言う。ですから弱法師はすごく学があった方なのですね（笑）。

—— この解釈は迷いますね。

南谷 平安後期に書かれた『栄花物語』には藤原道長の娘・上東門院が西の大門に車を停めて、西の海に沈みゆく夕陽を拝んだという文章が出てきます。記録に残っているのは高貴な方ばかりですが、四天王寺は海に沈む夕陽が見られるベストスポッ

トとして庶民の方も沢山、来ていたのではないのでしょうか。そこには説法する人がやってきたり念仏堂ができていたりして、西門周辺が日想観と共に念仏道場となり、特にお彼岸の頃はどんどん人が集まってきたのではないかなと思います。

—— まさに『弱法師』の世界ですね。能の舞台では俊徳丸と高安、お寺の下人が出てくるぐらいですが、あれは雑踏の中での出来事なのですね。先程、西門は海に沈む夕陽が見えるベストスポットとおっしゃいましたが、『弱法師』では盲目の弱法師が沈みゆく夕陽を心眼で見ます。



江戸時代の絵図。石の鳥居近くの説明版にて

南谷 今は海が埋め立てられ、ビルが立ち並んでしまったので見えませんが、江戸時代の屏風絵などを見ま

あらすじ

早世した世阿弥の嫡男観世十郎元雅の作。時は春、釈迦入滅の如月（2月）、彼岸の中日、時刻は難波の海に夕陽が沈もうとしている頃。彼岸の中日というので貴賤群集する雑踏のなか、弱法師と呼ばれる盲目の乞食が杖を突いて石の鳥居から境内に入り施行を受けようとします。彼の名は俊徳、ある人の讒言によって家を追われ、いまは盲目となっています。一方、家を追い出したことを後悔した父・高安通俊は、俊徳丸の現世と来世の安楽を願ひ四天王寺で施行を営んでいました。通俊は弱法師とのやりとりの中、我が子、俊徳であると気づき、父と名乗り、親子はともに家へ帰るのでした。

【南谷恵敬】

1953年生まれ。大阪大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得退学（文学修士）。四天王寺支院施行院住職。四天王寺執事（勸学部長）。四天王寺大学客員教授。著書に『四天王寺』（共著、考古学ライブラリー62 ニューサイエンス社）、『日常の中の仏教語』（海風社）など。



すと、お寺の西はかなり急な崖で、その先は入江のようになっています。石の鳥居の西に安居神社がありますが、その辺りから急に坂になっていて、その先に「津」「江」という地名が多いので、その辺りから海になっていたのではないかなと思います。鎌倉時代に描かれた『一遍上人絵伝』の四天王寺の場面を見ましても、石の鳥居の先が崖のようになっていて、その先が州浜になっています。興味深いのはお寺の塀の外に車の付いた小屋が沢山、描かれていることです。恐らくここで病の方や身寄りのない方が施行（救済）を受けているんですね。四天王寺にはかつて聖徳太子が設置したという「四箇院」というのがありまして、修行としての場である敬田院、薬草を育て、薬を施す施薬院、重病者を入院治療する療病院、身寄りのない者や困窮者を住まわせ生活させる悲田院を置く伝統があります。ですから弱法師もここへ施行を受けにやってくるのです。四天王寺はそういう人たちが集まる場所だったということだと思います。

—— 今はいかがですか？

南谷 悲田院は旧制度ですから今は行っていませんが、江戸時代には私の自坊（施行院）がそうだったようです。地名が悲田院町なので、恐らくこの町ぐらいの広い一帯が悲田院だったのかもしれませんが。四天王寺は今でも社会福祉法人四天王寺福祉事業団として活動してまして養老施設、障害者施設、病院など19施設あり、特に障害者施設に力を入れています。

—— 四天王寺は昔から困窮した人々がここに来たら、なんとかなるのではと目指して来る所だったのでしょね。現在のお彼岸の様子について教えていただけますか。

南谷 各お堂でご先祖供養のお経をあげてもらい、亀井堂で経木を流す

という一連の流れがあり、沢山の方が参拝に来られます。露店なども立ち並び大変賑やかですよ。

—— 日想観の行事などはされているのですか。

南谷 日想観はどちらかというと民衆の間で起こってきたものなので、お寺の公式行事としては行っていなかったのです。ですが平成17(2005)年から春と秋のお彼岸の中日に日想観の行事を始めました。参詣者が多い、夕陽に向かって法要を行っています。今は平安時代のように海に沈む夕陽を拝むことはできませんが、真っ赤な夕陽を見ることができます。お彼岸の中日は石の鳥居の真ん中に夕陽が見えて、それがすごく大きくなって赤くてね、素晴らしいですよ。



—— お彼岸には石の鳥居に大阪府警の行方不明者についての相談ブースができるとか。

南谷 そうそう、それは今もやっていますよ。

『弱法師』に出てくる場所について

—— 『弱法師』には四天王寺の境内にある様々な場所や宝物などが出てきますね。能のテキスト順にお話しを伺いたいと思います。

「かの一行の果羅の旅」

—— 能『弱法師』の話には突然、一行阿闍梨の物語が出てきますが、四天王寺にはこの一行阿闍梨の肖像画がありますね。

南谷 いわゆる真言宗の真言八祖（空海を含む真言宗の八人の祖師）の肖像画とは違い、侍者が3人もいる非常に珍しいスタイルです。でも、なぜ『弱法師』の中に一行阿闍梨が話に出てくるんでしょうね。面

白いなと思います。

—— 一行阿闍梨は弱法師と同じ体験をしているのですね。詞章にも出てきますが、阿闍梨はある罰を受けて真っ暗な闇穴道（あんけつどう）をゆき、赫奕（かくやく）と輝く九耀（くよう）の曼陀羅に出会うわけです。つまり、このあとの伏線になっているんですね。



「ご本尊は、如意輪の仏像、救世観音とも申すとか」

南谷 本尊は救世観音様です。恐らく創建時の本尊ではなく、天智天皇が安置された弥勒菩薩が本尊となり、聖徳太子が観音様の化身ということから如意輪観音、さらに救世観音へと変遷したのだと思われます。一方、四天王さんは最初、西に向けて一列に安置していたといわれています。ここは難波津ですから外国の船が沢山、着くわけです。友好的な船ならいいですが、外敵だった場合、四天王さんに守ってもらおうと。四天王寺は、元々はそういう護国のお寺だったのでないかなと思います。

「澄める亀井の水までも」



—— 亀井の水は天竺から流れてきていると能のテキストにあります。

南谷 色々な説がありますが金堂の下にある青龍池から流れる白石玉出

の水を「亀井水」と呼びます。極楽の無熱池（炎熱の苦しみがない池）の涼やかな水といわれ、飲めば病を治す薬水になるといわれる名水です。特に平安時代はこの水を求めに多くの人が来られ、上東門院は「にぎりなき亀井の水をむすびあげて心の塵をすすぎつる哉」、歌人の藤原俊成は「萬代に御代のながれたえじとや亀井の水の清くすむらん」と詠んでいます。

この水を亀の形に作った石像の口から同じく亀形の石槽に流し落としています。この石槽を調べてもらったところ7世紀ぐらいのものと分かりました。飛鳥の亀形石造物と同じく7世紀に作られたものであるといわれ、創建に近い時期からあったものであると分かりました。

—— 四天王寺は戦災に遭っていますよね。

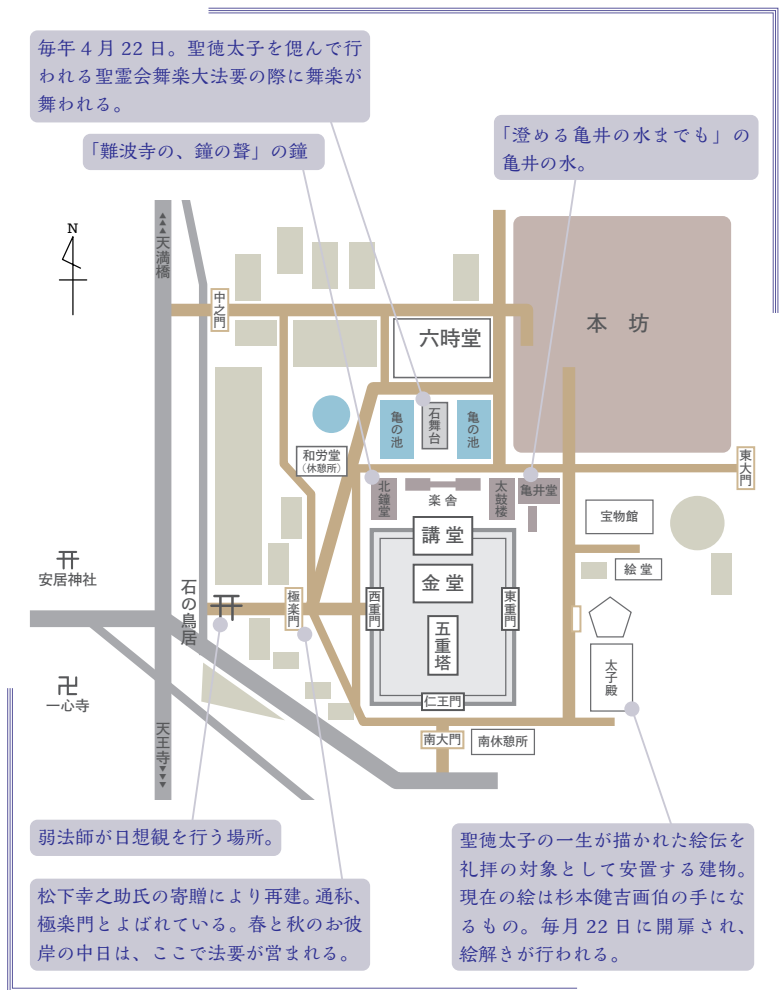
南谷 ですから一番古いものではないかなと思います。

「石の鳥居、阿字門に入って」

—— 先ほど石の鳥居の話が出ましたが、これは鎌倉後期の建造で重文ですね。鳥居があるのは、鎮守社の関係ですか。



南谷 そうではないみたいです。インドではストウーパの四方に石の鳥居のようなものが建っていますよね。ですから、ここが聖地だよという印、「石華表」というものだといわれ、我々は解釈しております。お寺が極楽の東門ということで、この石の鳥居が境目というわけですね。阿字門というのは梵字で第一字目の文字が「阿」



ということから、全ての声音の元であるとされ、最も大切な門という意味です。

石の鳥居の上に掛けられた扁額には「釈迦如来 転法輪処 当極楽土 東門中心」と書いてあります。この額は箕の形をしており、チリトリのように全ての願いをすくいにとって漏らさないという阿彌陀如来の本願を現しています。



「難波寺の、鐘の聲一」

南谷 これは無常院（北鐘堂）の

鐘のことです。『徒然草』にも書かれているように音程が黄鐘というA（う）に調節されてあると有名でした。ですが、実際に測定してみるとD（レ）なんです。恐らく中国では黄鐘と書いて「おうじょう」と読み、Dを差すので、そのことではないかなと思います。面白いのは北の鐘が黄鐘で、南の鐘が盤渉（黄鐘、盤渉＝雅楽の調子）ということです。今でもこの音に舞楽の調子を合わせています。



守章先生を偲んで

渡邊守章先生が急逝された。

日本の、というより世界の第一級の知識人を失ったショックは大きい。

ポール・クローデル、ラシーヌ、マラルメなどを研究する一方、ミシェル・フーコーとの共著ものされ、能・狂言、歌舞伎、文楽に通曉した上で、演出家としても創作能作者としても活躍される、といったまことにめざましい多彩なお仕事の全貌など、私のようなものが推し測れる筋合いのものではないことは承知している。

ただ一点、能楽だけは、守章先生と接点を持っているということで、拙文を先生に捧げるのである。

私は、観世寿夫という天才能役者に魅せられて能に興味を持ち、果ては能楽研究など始めてしまったものだが、その観世寿夫と肝胆相照らす仲であったのが守章先生であり、お二人が交わすスリリングな対談など、むさぼり読んだものである。お二人の二人三脚の歩みは、能楽史上、特筆に値するものであろう。

東大駒場の表象文化論で短い期間

ではあったが同僚として働かさせていただいたことも幸せの一つだが、なにより最近では、京都芸術大学の「春秋座一能と狂言」に、プレトークのお相手としてお招きいただいたことは、とてもうれしかった。

そしてプレトーク後の、守章先生企画・監修の能の舞台がすばらしいのである。

たとえば2018年2月公演の『三輪』。

それは「白式神神楽」という特殊演出であったが、少し薄い赤味がかった白色光の照明の中、白装束のシテ観世鍔之丞が花道のスッポンのあたりに来て、左手で袖を巻き上げ高くかかげるシーンなど、まさに神々のエピファニーであり、そこで私は『三輪』という能がく神聖歌舞劇となった瞬間を目撃したのであった。

守章先生の創作能である『薔薇の名』の春秋座での再演(2008年5月)も忘れがたい。このときもまた花道が効果的だった。序の舞が終わわり、牡丹の立物に白の舞衣、朱の大口姿の観世鍔之丞が花道をぐんぐん進む

と、美がせり上がってくるようだった。それこそ〈クラトファニー(神力的力の顕示)〉の成就であった。『薔薇の名』は守章先生の名作だと思う。



松岡心平

東京大学名誉教授

1954年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科教授(表象文化論)を経て、現在、東京大学名誉教授。千葉工業大学日本文化再生研究センター主席研究員。能の研究上演団体『橋の会』の運営委員を務めた。一般財団法人『観世文庫』理事。著書に『宴の身体—バサラから世阿弥へ』(岩波書店)、『中世芸能講義』(講談社)などがある。

CLIP

三代目市川猿之助の押隈を展示しております

この度、春秋座で「猿翁アーカイブフォーラム」や公開講座「日本芸能史」などを手掛ける本学・田口章子教授により、2001年5月に三代目市川猿之助(初代春秋座芸術監督)が春秋座柿落し公演の折に演じた『日本振袖始』の押隈(舞台が終わってから布または紙を顔へ押しあてて隈取りを写しとったもの)が春秋座に寄贈されました。劇場ロビーには、この押隈をはじめ貴重な押隈の数々を展示しております。ご来場の際は、ぜひご覧ください。

左：三代目市川猿之助が演じた春秋座柿落し公演『日本振袖始』押隈
右：四代目市川猿之助が演じた吉例顔見世興行『義経千本桜』狐忠信の押隈



「鼓童」に学ぶ

初めて佐渡島に足を運んだのは2008年4月でした。太鼓演奏集団「鼓童」との稽古の為に。鼓童と新日本フィルハーモニー交響楽団が共演した石井眞木作曲の「モノプリズム」の演奏を指揮する事となり、まずは鼓童のみでの稽古でした。

私の不勉強ではありますが、前身の鬼太鼓座の事は何となく知っていましたが、勝手に屈強な人々の集まりで、私もいきなり走られるのではないかとビクビクして佐渡島に向かった事をよく覚えています。到着するととても穏やかな面々が待っていて下さり、すぐに打ち解けて稽古も充実したものであり、その年の公演の成功を確信しました。

私は、クラシック音楽こそ高尚なものであるといった感覚は全くありません。芸術文化に浅はかなヒエラルキーは無いと信じています。歴史的に支配者階級が色々な芸術に影響を及ぼして来た事は理解はしていますが、音楽そのものに上下は無いと思います。

佐渡島に行く時に一番緊張してい

た事は、どのような音楽言語で交流すれば良いのだろうという不安でした。素晴らしい太鼓の技術や音楽性をクラシック音楽の決まり事で縛っていけないし、また逆にオーケストラの譜面に書いてある細かい動きに合わせるのか？という心配もありました。石井眞木という天才作曲家のなせる技か、それぞれの良さを相殺しないどころか、お互いの素晴らしさが呼応する素晴らしい作品でしたので、前述の通り稽古前の不安は全くの杞憂でした。しかし、彼らの使っている専門用語はすぐには理解出来ませんでした。実際の演奏を聴くと、その響きに圧倒され、鼓童への敬意が刻々と増して行きました。

最近、色々なジャンルの交流が盛んになっていると思いますが、国々の交流なども含めて、その歴史・習慣に対する敬意が一番大切だと思うのです。それが出来たらなんて素敵な世の中になるのだろうか！と思います。鼓童との共演の度にそう思います。いつも学ぶ事ばかりです。



下野竜也

指揮者／広島交響楽団音楽総監督

鹿児島生まれ。2000年東京国際音楽コンクール、2001年プザンソン国際指揮者コンクール優勝。以降、国際的な活躍を続けている。広島交響楽団音楽総監督、広島ウインドオーケストラ音楽監督、太鼓芸能集団「鼓童」ミュージックアドバイザー。京都市立芸術大学、東京音楽大学、東京藝術大学にて後進の指導にあたる。

公式ホームページ
<http://www.tatsuyashimono.com/>

CLIP

**2月は、舞台芸術学科の公演以外にも
学生サークルの卒業公演が盛りたくさん！
ぜひ応援してください！**

2月3日(木) 桃色女剣劇団 卒業公演

2月23日(水・祝) ジャグリングサークル Relish

2月27日(日) 和太鼓恵卒業公演

詳細は劇場ウェブサイトをご覧ください。

BOOK

『舞台芸術』25号 2022年3月発行予定

テオドル・クルレンツィス＋ムジカエテルナ
『Plan b』テキスト

「歴史」が「作品」となるとき：『虚構の声』
 新井知行（ホー・ツーニエン『虚無の声』ドラマトゥルク）インタビュー
 聞き手：高橋宏幸

エッセイ「2021年のニューヨーク」橋本裕介

猿翁アーカイブ（探録）石川耕士、藤間勘十郎、他

悲劇作家としての挑戦——上田久美子『桜嵐記』が問いかけるもの
 伊藤愛

渡邊守章追悼特集

追悼座談会——浅田彰、石田英敬、根岸徹郎、森山直人（司会）

など

演劇作家・藤田貴大 ワークショップ

「待ち合わせていた風景を記録する」
「着る・食べるを記録する」

2021年2月から演劇に人が集うということや、人々の営みについて藤田貴大さん（マームとジブシー主宰）が参加者の方々やスタッフと共に考えるワークショップを開催いたしました。当たり前のことが簡単にはできない現在。劇場へ訪れるために“おめかし”、“待ち合わせ”、“観劇”、“食事”をする——。その一連の風景の記憶を藤田さんが参加者にオンラインでインタビュー。それらの素材を構成し2022年3月、作品として発表いたします。

ワークショップ① 2021年2月 待ち合わせていた 風景を記録する

「待ち合わせ」ることの記憶について藤田氏が参加者にインタビュー。小学生からシニア世代まで幅広い参加者から聞き出した“風景の記憶”を元に藤田さんが立ち上げたテキストと参加者が撮影した写真でWEBサイトを作成しました。



《参加者のコメント》

ワークショップの3日間、様々な風景の記憶を抱える人々が、インタビューという「待ち合わせ場所」を通じて出会った。参加者ではない私にとって、その光景は、舞台上で歩き回る演者のようで、もうこれは上演がはじまっているのではないかと手に汗をにぎっていた。

学生スタッフ 毛利文香
(アートプロデュース学科4年生)



2021年3月サイトオープン
「待ち合わせていた風景を記録する」
特設Webサイト



ワークショップ② 2021年8月 おめかした あの日の、記憶

観劇するとき、家にいるときなど、服や装いに関する記憶についてインタビュー。おめかしのポートレイトも撮影。



撮影は2021年11月

《参加者のコメント》

朝起きて身に着けるものや自分が着ていく服、つけていく時計など今まであまり意識してこなかったのですが、尊敬している藤田さんから改めて聞かれることで真剣に考えるようになりました。今はまだ、どのような作品になるのか分からないけれど、このよく分からないものがどのような作品になるのだろうかドキドキワクワクしています。

保井岳太
(舞台芸術学科 演技・演出コース1年生)

《参加者のコメント》

マームとジブシーには高校生の頃から関心があり、また藤田さんの戯曲を演劇部で上演していたこともあって参加しました。憧れの劇団に関わって、このような撮影も初めてで楽しかったです。インタビューでは普段聞かれないことを尋ねられ新鮮でした。

渡邊菜央
(美術工芸学科 総合造形コース1年生)

ワークショップ③ 2021年8月 まい日の食事／ あの日の食事

家で、外で、普通の日に、特別な日に、食べること、料理に関する記憶についてインタビュー。料理をつくっている映像も撮影。



撮影は2021年11月

《参加者のコメント》

藤田さんは聞き上手なので話すのが楽しく、いつもあっという間に終わってしまう印象です。オンラインでも楽しくていっぱい笑うので話し終えると表情筋が疲れるほどです。こういう形のワークショップもありと思うと同時に、やはり一緒に体を使って作品作りをしたいという気持ちがわきました。

森史佳
(舞台芸術学科 演技・演出コース1年生)

『タイトル未定』 構成・演出：藤田貴大

2022年3月26日(土)・27日(日) 予定 会場：京都芸術劇場 春秋座

※当劇場では2016年から藤田貴大氏、マームとジブシー、一般の方々、本学学生との協働作業を継続して行っており、本企画はその一環です。

※詳細は決まり次第、劇場HPに掲載いたします。

大学開学30周年記念・劇場20周年記念公演

12月11日(土)／12日(日) 13:00

春秋座

創立40周年ツアー第三弾

鼓童ワン・アース・ツアー 2021 ～童(わらべ)



命の音(リズム)、魂の躍動。

毎年恒例となった太鼓芸能集団 鼓童公演です。今回は昨年上演した「鼓」の連作、「童」を上演します。彼らの本拠地である佐渡島をテーマに、前作の「鼓」は太鼓の音を、「童」は人をフォーカスし子どものように純真無垢に太鼓に向き合いたいという思いが込められた作品です。日本の太鼓だけでなく世界中の楽器も取り入れた賑やかな楽曲や豊かなアンサンブル、力強い演奏は、きっと見る人の心に未来と生きる活力を与えてくれることでしょう。

【演出家より】

コロナ禍により、多くの方々の暮らしは一変しました。

私たちも日本各地、世界各地へ太鼓の音を直に届けられない期間が続き、佐渡島で多くの時間を過ごしました。その間、豊かな自然と独自の文化、多種多様な芸能が身近にあるこの島で稽古に励み、若手・中堅問わず個性豊かに創作し、新たな楽曲が次々に生まれました。今回はそれらの曲も披露いたします。

鼓童の未来への礎となる舞台をお楽しみいただけたら幸いです。

演出 太鼓芸能集団 鼓童 代表 船橋裕一郎

「こえ」
「声」

バリ島の竹楽器グラタンと日本の太鼓や笛の音色が豊かに混ざり合うオープニングにふさわしい華やかな楽曲。そこに岩手県の郷土芸能、金津流梁川獅子躍のエッセンスが加わります。

「海鳴り」

鼓童の真骨頂でもある太鼓アンサンブルの新曲。太鼓セット、桶太鼓、宮太鼓、平胴大太鼓をひたすらに打ち込む奏者の姿は、荒波に向かう船団のようにも、波そのものにも見えてきます。

「いのち」

2021年10月、創立40周年 鼓童×東京交響楽団「いのち」にて、オーケストラとの共演の為に鼓童メンバーが作曲。全6楽章のうちの1楽章を鼓童だけの楽曲として編曲。美しい笛の和音と徐々に音量が上がる太鼓、そして大太鼓が乗る屋台が動き出し、最後は声も加わりクライマックスへと盛り上がります。

「おこし」
「興」

佐渡島の各地に伝わる伝統芸能「鬼太鼓」より佐和田地区で翁を、新穂地区で獅子を習い、それを元に構成。屋台の上で様々な太鼓や鳴り物などが賑やかに打ちならされる中、翁や獅子たちが舞い踊ります。

その他、新曲、三宅、屋台囃子など数々の名曲を演奏いたします。



プログラムより新曲を中心に紹介

12 11日(土)／12日(日) 13:00 春秋座

大学開学30周年記念・劇場20周年記念公演 特集▶P.9
創立40周年ツアー第三弾
鼓童ワン・アース・ツアー 2021 ～童(わらべ)

全席指定・発売中 ※未就学児童の入場はご遠慮ください。

一般 6000 円 友の会 5000 円

学生&ユース 3000 円 (100席限定)

【託児サービス】12日(日)は託児サービスをご利用いただけます。

申込期間：～12月3日(金) 17:00

T-C OTS e+ ぴあ 生協 KBS

2 19日(土) 11:00／15:30、20日(日) 11:00 春秋座

大学開学30周年記念・劇場開場20周年記念公演
京都芸術劇場 春秋座 芸術監督プログラム
市川猿之助 藤間勘十郎 春秋座花形舞踊公演
出演：市川猿之助、藤間勘十郎

中村歌昇、中村孝太郎、中村種之助 ほか

全席指定 ※未就学児童の入場はご遠慮ください。

【一般発売12月15日(水)、友の会先行発売12月14日(火)、

友の会プレミアム先行発売12月13日(月) 10:00】

一般 10000 円 友の会 9500 円

学生&ユース席 4000 円 (座席範囲指定)

※詳細は決まり次第、劇場 HP に掲載いたします。

1 30日(日) 14:00 春秋座

大学開学30周年記念・劇場20周年記念公演
高校演劇コンクール近畿大会優秀校
第21回「春秋座」招待公演

演じる高校生

全席指定・発売中 ※未就学児童の入場はご遠慮ください。

一般 1500 円 友の会 1200 円

学生&ユース 500 円

【託児サービス】申込期間：～2022年1月21日(金) 17:00

T-C OTS e+ ぴあ

3 12日(土) 14:30 春秋座

大学開学30周年記念・劇場20周年記念公演 特集▶P.T・2
彩吹真央&京フィル レインボーコンサート in 春秋座
スペシャルゲスト 佐藤隆紀 (LE VELVETS)

全席指定 ※未就学児童の入場はご遠慮ください。

【一般発売2022年1月19日(水)、友の会先行発売1月18日(火) 10:00】

一般 7000 円 友の会 6500 円

学生&ユース席 3000 円 (座席範囲指定)

【託児サービス】申込期間：～2022年3月4日(金) 17:00

T-C OTS e+ ぴあ 生協

2 6日(日) 14:30 春秋座

大学開学30周年記念・劇場開場20周年記念公演
渡邊守章追善公演 春秋座一能と狂言 特集▶P.2

全席指定 ※未就学児童の入場はご遠慮ください。

【一般発売12月1日(水)、友の会先行発売11月30日(火) 10:00】

1 階席 一般 7500 円 友の会 7000 円

2 階席 一般 6500 円 友の会 6000 円

学生&ユース席 2500 円 (座席範囲指定)

【託児サービス】申込期間：～2022年1月28日(金) 17:00

T-C OTS e+ ぴあ 生協

2021 年度 卒業制作・授業発表公演

【学生公演主催】京都芸術大学 舞台芸術学科

tel.075-791-8237 (平日9-17時)

各公演の詳細は舞台芸術学科ブログページへ



12月4日(土) 13:00／18:00、5日(日) 13:00

卒業制作公演

川辺企画『ラブの餓鬼道』

ホテル女子会を開く大阪の大学生に起きたある事件を描く。一室で過ごす彼女らを定点観察する演劇作品。

入場料 1500 円

studio21

チケットお問合せ先

京都芸術劇場チケットセンター

tel.075-791-8240 営業：平日10:00-17:00・公演開催日は

営業時間を変更する場合があります。詳しくは劇場 HP でご確認ください。

京都芸術大学 舞台芸術研究センター

京都芸術劇場 春秋座・studio21

606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

tel.075-791-9207 fax.075-791-9438

E-mail. k-pac@kua.kyoto-art.ac.jp

https://k-pac.org/

京都芸術劇場 検索



京都芸術劇場友の会 会員募集中！詳しくは劇場 HP へ

T-C 京都芸術劇場チケットセンター OTS 劇場オンラインチケットストア

e+ イープラスー https://eplus.jp

ぴあ チケットぴあー https://t.pia.jp

生協 京都・滋賀各大学生協ブレイガイド

KBS KBS 京都事業部 tel.075-431-8300 (電話のみ 平日10-17時)

*特に表記のない場合、前売と当日は同じ料金

*ユースは25歳以下対象 (一部公演を除く)

*学生・ユースは要身分証明書提示、チケットは京都芸術劇場チケットセンター、劇場オンラインチケットストア、大学生協のみ取扱い

託児サービス 料金：お子様1名に付き1500円 対象：生後6ヶ月以上7歳未満

予約・お問合せ：京都芸術大学舞台芸術研究センター

tel:075-791-9207 (平日10-17時)

カーテンコール

「京都芸術劇場ニュースレター」は今号をもって発行を終了することになりました。公演情報は引き続き劇場ウェブサイトやSNS等でご案内いたします。長い間、ありがとうございました。〔S〕



京都芸術劇場
ニュースレター

shunjuza
studio21
Newsletter

特集

春秋座 能と狂言

彩吹真央&京フィル
レインボーコンサート in 春秋座

T・2P
T・5P

2P
5P

vol.
51

2021.12



彩吹真央&京フィル レインボーコンサート in 春秋座 スペシャルゲスト 佐藤隆紀 (LE VELVETS)

毎年、春秋座で恒例となった宝塚歌劇団OGと京都フィルハーモニー室内合奏団とのジョイントコンサート。今年は、宝塚退団後、女優として歌手として大活躍されている彩吹真央さんが登場されます。ゲストにはミュージカル俳優として人気の佐藤隆紀さん (LE VELVETS) が出演。どんなコンサートになるのか、お2人にお話を伺いました。

(インタビュー2021年10月
京都芸術大学 外苑キャンパスにて)

2022年3月12日(土) 14:30

会 場：春秋座

劇場HPにロングバージョンを掲載中です。
ぜひ、併せてお読みください。

●公演情報の詳細はスケジュール一覧〈P.10〉をご覧ください。

思い出のジュディ・ガーランド

—— 彩吹さんが春秋座にいらっしゃるのは2015年の『アドルフに告ぐ』以来ですね。

彩吹 7年ぶりですね。今回は京フィルさんと春秋座で一緒にさせていただけることになり、何て贅沢なのだろうと思っております。

—— 彩吹さんは2010年に宝塚を退団されてから本当に沢山の舞台に出演されていますが、「アドルフ」と同年に上演した主演作『End of the RAINBOW』では再演も果たされていますね。

彩吹 私が演じたジュディ・ガーランド（1922-69）は実在する女優でありシンガーで、代表曲『Over The Rainbow（虹の彼方に）』は『オズの魔法使』の挿入歌としても有名ですね。

—— 彼女は壮絶な人生を送った方なんですよ。

彩吹 葉やお酒に走ったり、恋多き人生を送った方ですが、私も舞台に立つ人間なので彼女の孤独が分かりますし、辛さや喜びに共感する部分もあったので、演じていて幸せな部分と正直すごく辛い部分もありました。ですが、彼女から色々なものをもらい、感じさせてもらったことで今があると思っていますので、いまだにジュディのことを思い出しますね。いつかまた演じられる機会があったらいいなと思います。

—— このコンサートシリーズでは毎回、出演者の方をイメージしたタイトルを付けているのですが、今回は彩吹さんが演じられたジュディから、「彩吹真央 & 京フィル レインボーコンサート」に決定いたしました。

彩吹 ありがとうございます。

—— そしてゲストにLE VELVETSの佐藤隆紀さんをお迎えいたします。佐藤さんとは何度か共演されていますね。

彩吹 シュガー（佐藤）と最初に一緒にしたのは元宝塚の方とLE VELVETSによるコンサート『The Sparkling Voice — 10人の貴公子たち —』（2016）かな？

佐藤 そうですよ。

『エリザベート』は宝塚人生のターニングポイントになる作品

—— 宝塚には16年いらしたので随分、沢山の作品にご出演されていますが、印象に残った作品というの何になりますか？

彩吹 沢山ありますね。でも『エリザベート』でしょうか。『エリザベート』の日本初演は宝塚で、しかも一路真輝さんの退団公演でした。当時、私は入団3年目で、東宝版でいうトートダンサー、宝塚版でいう黒天使役で出させていただきました。次に春野寿美礼さんがトートをなさった時は皇太子ルドルフ役を、水夏希さんがトートをされた時は皇帝フランツをさせていただいたんです。

佐藤 へー、すごい！

彩吹 3回も出させていただいたというのは最多ではないかなと思っています。その他にも新人公演で革命家のエルマーとシュテファンをやりましたし、他にも参列者や影コーラスもやったので『エリザベート』は体に染みついてる感じがします。

そうやって新人、中堅、上級生と異なる学年の時に出演させていただき、また、パウホールやシアター・ド

ラマンティなど小劇場で主演をさせていただくようなタイミングの時にも出演しているので、私の中で『エリザベート』はターニングポイント的な作品として刻まれている気がします。ですから東宝版も観に行きますが、やはり自分がやった役はもちろん、それ以外の役にも感情移入してしまいますよね。

—— 佐藤さんがご出演された東宝版の『エリザベート』はご覧になりましたか？

彩吹 もちろんです！

佐藤 恐らく僕が初めて『エリザベート』に出た時のものです。その時、まだ舞台は2作品目だったので本当に何も分からないまま出ていたんですよ。本当にお恥ずかしい限りの状態です。

彩吹 フランツ役をされていたのですが、フランツは若い時から晩年までを演じるじゃないですか。1幕のフランツの初々しさがとても印象に残っています。エリザベートに告白するシーンではシュガーがまだ舞台に対してドキドキしている感じと、とてもマッチしていたんですよ。

佐藤 素敵に表現していただいて本当にありがとうございます（照）。

彩吹 そこから段々と年を重ねていくのが上手く表現されていたなと思います。その頃からなんですけれど、容姿的にも安定感があるというのですか？ すみませんっ（笑）

佐藤 いえいえ、本当に。演出の小池修一郎先生にも「君は晩年期の方が似合っているから、むしろ若い所をもっと若くしなさい」と言われていたぐらいで（笑）。
彩吹 その時は何歳だったんですか？



佐藤 29歳ですかね。

彩吹 いやー、その年であの安定感ってなかなか出せないですよ。あ、そうしたら2人で「夜のポート」(『エリザベート』)ができるんじゃないですか。

佐藤 ぜび！

彩吹 嬉しいですよ。じゃあ今回、「夜のポート」はぜひ歌いましょう！

—— 現在はミュージカルにも沢山、出演されておられる佐藤さんですが、『レ・ミゼラブル』(2019)ではジャン・バルジャンに抜擢されましたね。決まった時のことは覚えておられますか？

佐藤 当時、まだ若かったのですがオーディションのお話をいただいたので「これは挑戦だー！」と思って受けました。でも高音が全く出なくて1年目は落ちてしまっ。2年目に受けた時も高音が全く出なかつ

たのですが、気持ちで、感情で、表現しようと思いきり歌い「これは落ちた！」と思ったら受かったんです。だからもう不安でした。しかも高い音が全く出なくて、叫ぶような声でやっていたので喉を痛めてしまっ。これじゃあダメだと今年(2021)のレミゼに向けて1年半、練習して練習して。それでやっと今年、ジャン・バルジャンとして初めて舞台に立てたかなと思います。でも、地方の一部の公演が中止になってしまっ。福岡が半分、最後に松本公演だけできたのでありがたかったですね。

—— 『Bring Him Home(彼を帰して)』は素晴らしいかったです。あれを春秋座でぜひ聴きたいですね。

佐藤 歌いましょう！ ぜび。京フィルさんの演奏で歌わせていただけるなんて嬉しいですよ。

—— 佐藤さんの声は聴いていて、慈愛に満ちた浄化されるような素晴らしい声ですね。

彩吹 そうなんです。マイナスイオンに包まれるようなんですよ。なんでしょう、体をぐるりと包まれる感じなんです。周波数とか詳しくは知らないのですが、普通はツーンとまっすぐ体に入ってくる音が、ふわと体の周りをまわって入ってくる感じなんです。

これ、初めて言うのですが、シュガーと共演した『マリー・アントワネット』の時、こんな風に歌えたらステキだろうなと思って舞台袖でシュガーの真似をしたことがあります。こういう風に出すということは、こですごく息を吸って、それをどういう風に体の中で回してそこへたどりつくんだらうって、研究しながら真似したりして。

佐藤 わー、すごく嬉しいです。僕、発声が好きで、

楽しくてしょうがないんです。

彩吹 大好きって素晴らしい！

佐藤 発声って段階的に変わるじゃないですか。だんだん変わるのではなくて、何か掴んだ瞬間にパチッと変わる。

彩吹 うん、分かる！

佐藤 高校生の時から声が変わっていくのが楽しくて楽しくて。昔はいわゆるエセオペラ声だったんです。あーって(低い声で歌ってみる)。

彩吹 うん(笑)、作った声ね。

佐藤 素人がオペラの人ってこういう歌い方するよねっていう。それを恩師に「それは籠ってしまっ。良い声じゃないんだよ。男の人ってよく響く、良い声が鳴るって聞いたけれど？」って言われて。「なんだ、それ？ 響く声って」思ったのが発声の目覚め。そこからこれは良くない声なんだって直す作業から始めて、響く声ってなんだらうとピアノを叩きながらやっていたら、ある日バチ！って響く感覚があつて「これはなんだ！」ってなったのが高校2年生の時なんです。

彩吹 おー、すごい。

佐藤 といっても、当時はバリトンだったので、ずっと高音は出なくて。そこで大学3年生の時に高い音を出すには何かコツがあるはずだと図書館に行っ。世界で活躍している歌手のDVDで研究をしていたら、みなさん高音を出した後に何かクセのような特徴があるのを見して、それを真似た日から高音が出るようになったんです。

彩吹 声マニアだね。すごい！ 探求心があつたか

ら今のシユガーがいるんだね。

佐藤 だから舞台袖で聞いていてマネするっていう感じが分かります。いいなって思っ、なんでそれがいいんだらうって研究したくなるんですね。発声の話をすると止まらなくなってしまうので、この辺にしておきます(笑)。

デュエットするならこんな風に

佐藤 2人で歌ったことはいですね。今までデュエットされた方とは何を歌ったんですか？

彩吹 ミュージカルが多いかな。

佐藤 それじゃあディズニー系とかもいいですね。

彩吹 いいですね！ いいですね、すごくいい!! 選ぶとしたらやっぱりみなさんが知っている曲がいいですね。何がいいかなあ…。お客様には楽しみにしていただきますし。

—— お2人がデュエットで大切にされていることで何かはありますか？

佐藤 僕はどうやって2つの声を混ぜたらキレイになるかな、というバランスを考えます。「自分の声を聴いてください」というように歌うとせっかくのデュエットなのに混ざりが悪くなってしまうので、出したリ引いたりというバランスをすごく考えます。

彩吹 私は宝塚時代から自分でもこれは悪い癖だなと思うことがあって。例えば『エリザベート』の闇広(闇が広がる)もそうですが、上級生とハモる時に寄り添う癖がついてしまっているんですね。音質にも役の個性が必要なのに、倍音的な、この辺で歌っているから、そこへ寄り添ってみようとしてしまい、どちらが歌っているの？ となってしまうこ

とがあるので、そうならない寄り添い方を目指したいなと思っています。

佐藤 どちらかという僕もそっちの方かも。デュエットとなると特に寄り添いがちなんです。でもいいじゃないですか、お互いに。

彩吹 寄り添いながらいのを作っていくのもいいですね。その作っていくのが嬉しいというか、未知との遭遇というか、ワクワクしますね。

佐藤 楽しみです。

—— 最後に春秋座に来られる皆様に一言お願いします。

彩吹 コロナ禍でミュージカルなど演劇作品が上演できなかった時があり、ようやくこうして劇場にお客様が戻ってこられるようになり、お客様と会えることが本当に楽しみです。大それたことはできないかもしれませんが、京フィルさんの素晴らしい音楽に私たちが乗せていただいて「生で聞く音楽っていいな」って思っていたら、それだけで嬉しいと思うんです。生きていく上で音楽って必要だになって、そういう風に思っていただけ温かいコンサートにできたらいいなと思います。

佐藤 生の持つ音楽の力ってすごいと思うので、京フィルさんと一緒にさせていただき、彩吹さんとうして一緒にさせていただき、皆様にまた違った形で、違った姿をお見せできると思います。彩吹さんが今、おっしゃられたように「あく来て良かった、これを楽しみにしていたんだ」って思っていただけのような素敵なコンサートを作ってお待ちしておりますので、ぜひお越しください。

彩吹 真央 Mao Ayabuki

大阪府出身。1994年宝塚歌劇団に入団。繊細な演技力と豊かな歌唱力を持つ男役スターとして活躍。2010年に退団後は舞台を中心に、ライブ・コンサートやラジオドラマなど多岐にわたって活動している。主な出演作に、ジュディ・ガーランド役の体当たりな演技で観客を魅了した『End of the RAINBOW』、『シラノ』『ロコへのバラッド』『サンセット大通り』『ラブ・ネバー・ダイ』『フリーダ・カーロ』『マリー・アントワネット』等のミュージカル作品、『アドルフに告ぐ』『イヌの仇討(こまつ座)』『五番目のサリー』等のストレートプレイ作品や、『VOICARION IX「信長の犬」』『ラヴ・レターズ』等の朗読公演他、ジャンル問わず多数出演。作品ごとに幅広いキャラクターを演じ分ける。



佐藤 隆紀 Takanori Sato

国立音楽大学演奏学科声楽専修卒業。2008年クラシックを中心に独自の世界を創り上げるヴォーカルグループ「LE VELVETS」のテノールでデビュー。2020年、癒しと祈りをテーマにしたアルバム『PRAYLIST』をリリース。ソロ活動では、2015年に『タイタニック』でミュージカル初出演を皮切りに『マリー・アントワネット』『スカーレット・ピンパーネル』『エリザベート』『キューティ・ブロード』『マタハリ』など出演を重ね、2019年『レ・ミゼラブル』でジャン・バルジャンを務めた。2020年『CHESS THE MUSICAL』で日本人唯一のメインキャストとして出演。同年『エリザベート』にフランツ・ヨーゼフ役で出演予定であったがコロナ禍の影響を受け休演。2021年春よりジャン・バルジャン役に『レ・ミゼラブル』出演。